



第21回日本 e-Learning 大賞 募集要項

ご応募はこちらから ▶ www.elearningawards.jp

【実施概要】

名称: 第21回日本 e-Learning 大賞
主催: 一般社団法人日本オンライン教育産業協会
産経新聞社
後援: 申請中
問い合わせ先: 一般社団法人日本オンライン教育産業協会
info@elearningawards.com

募集締切: 2024年7月31日(予定)
審査: 第一次選考 2024年8月上旬(予定)
最終審査 2024年9月上旬(予定)
発表: ●「eラーニングアワードフォーラム 2024」(2024年11月5日(火)~8日(金) 会場内で発表。
ニュースリリースにより事前発表も予定
●「eラーニングアワードフォーラム 2024」公式サイトに掲載します。

【昨年度実績】

日本 e-Learning 大賞、経済産業大臣賞、文部科学大臣賞、総務大臣賞、厚生労働大臣賞、各団体会長賞(ICT CONNECT21、医療系 e-Learning 全国交流会、日本電子出版協会)、特別部門賞(16点程)

【趣旨・目的】

2004年に創設された「日本 e-Learning 大賞」は一般社団法人日本オンライン教育産業協会ならびに産経新聞社により運営されています。本制度は、新しい e-Learning の可能性を例証し、優秀な事例や取り組みを顕彰することによって、e-Learning の健全な発展、市場の確立、およびユーザーまたはベンダーの育成を支援することを目的としています。企業・自治体・団体においては e-Learning を用いた生産性向上・業務や就労の改革、また学校・個人においては新しい学習形態の可能性・学力向上などに役立つさまざまな取り組みを称え、表彰します。

21回目となる今年も、企業・自治体・団体・学校などから広く募集します。関係の皆様のご応募をお待ちしています。

【表彰】

11月5日(火)、「eラーニングアワードフォーラム 2024」にて表彰いたします。 ※ソラシティカンファレンスセンター(東京・御茶ノ水) 予定

【審査方法・審査委員】

審査方法 第1次選考=応募用紙およびデモデータ素材にて審査。
最終審査 = 第1次選考通過者によるプレゼンテーションムービーによる事前審査と5分間の質疑応答により選考。
選考委員会 第1次選考 選考委員長 副審査委員長 株式会社人財ラボ 代表取締役社長 下山博志 氏
最終審査 審査委員長 北海道大学 情報基盤センター 准教授 重田勝介 氏

【応募要領・方法】

応募対象 応募は無料です。企業・自治体・団体・学校での応募のほか、個人での応募も可能です。※原則として拠点を日本国内に有する団体、個人
応募テーマ 応募テーマは自由で、応募点数に制限はありません。審査共通評価基準をもとに、応募作品の中から教育 ICT の発展を予感させるコンテンツ、サービス、ソリューション、導入事例などへの日頃の取り組みを評価します。
応募方法 「日本 e-Learning 大賞」公式ウェブサイトから日本語にてエントリーしてください。あわせて、アピールポイントがわかる応募作品、もしくは応募作品の内容がわかる素材(URL、ファイル、動画など)もウェブにて提出してください。
【重要】ご提出いただく素材に関しまして、作品にログイン出来ない、審査基準に沿わないパンフレットの提出、動画が再生されない等が原因で、正確に審査ができない場合がございます。ご応募を頂く上で、正確なご準備の程、よろしくお願い致します。
資料として体験版などを提出される場合、参考情報に留めます。
審査時点では事例ユーザー名は一般公表いたしません。 <http://www.elearningawards.jp/>
受賞者には「受賞者講演」の機会をご用意いたします(予定)
受賞者講演の様子は録画し、eラーニングアワードフォーラム公式 web サイトにて公開いたします。

【お問い合わせ】第21回日本 e-Learning 大賞事務局
一般社団法人日本オンライン教育産業協会 事務局 担当=加藤

【評価基準】

審査共通 評価基準

■新規性

画期的なコンテンツ、ネットワーク技術の活用、新規活用分野の開拓、新しい学習法の提案などにより、新たなeラーニングのあり方を実現し適用分野の拡大に貢献するような新規性を有している

■信頼性

学習成果を高めるための理論や見識に基づきながら、eラーニングの分析・設計・開発・実施・評価・改善を行うことで、質の高い教育コンテンツの開発や学習者のメンタリング等につながるような、eラーニングの品質保証に取り組んでいる

■有用性

オフィスや工場などの企業や組織の生産性を向上させる、または学校や大学などの教育機関において学習効果を向上させるような、効果的なeラーニングを提案している。また、学習評価への客観指標導入やeポートフォリオの活用、認定証による学習達成の証明など、eラーニングの学習評価を学習者へのインセンティブや社会における付加価値の創造などに繋がるような工夫を、eラーニングに導入している

■テクノロジー活用

映像や音声、シミュレーションやVR・ARなどの多様なメディア、またはスマートフォンやタブレット端末などのモバイル端末を効果的に活用することで、学習者の学びを促進し学習効果を高めるようなeラーニングを提案している

■ビジネス/社会連携推進

エコシステム形成や学習コミュニティ形成によって、ビジネスや社会連携を推進し、eラーニング産業の発展やeラーニングの社会基盤への浸透に取り組んでいる。また人生100年時代に向けて、学習意欲や学習継続性を高める工夫がなされている

【表彰内容】※前回実績含

■日本 e-Learning 大賞（通称:e-Learning of the Year）1点（賞状と賞品）

応募作品の中で今年最も優秀である作品を表彰対象とする。

■大臣賞

経済産業大臣賞、文部科学大臣賞、総務大臣賞、厚生労働大臣賞 各1点

■各団体会長賞

ICT CONNECT21 会長賞、医療系 eラーニング全国交流会会長賞、日本電子出版協会会長賞 各1点～数点

■各特別部門賞 数点（賞状）

ある分野において極めて特徴的であり、今後の可能性を大いに感じさせる作品を表彰対象とする。

※DX 人材育成特別部門賞、グローバル教育事例特別部門賞、ゲーミフィケーション特別部門賞、デジタルバッジ・学習履歴特別部門賞、リカレント特別部門賞、リスキリング特別部門賞、学びの変革特別部門賞、教育 DX 特別部門賞、人的資本経営特別部門賞、生成系AI特別部門賞などをはじめ、様々な分野における特別部門賞を設定予定です。

※賞名称は予定です。その他賞については前回ベースにて申請中です。申請がおり次第、公式 web にて更新します。

過去の受賞作品はこちらの URL からご覧いただけます。 <http://www.elearningawards.jp/>

(トップページの「日本 e-Learning 大賞」タブをクリックしてください。)